

れた大雨洪水警報は現在の技術からは発表時刻、内容ともにあれ以上望むことは難しい。そのような警報が出たにもかかわらず、死者299人という大被害が発生した。警報下にもかかわらず被害が大発生した原因が何処にあるかが問題となる。

長崎水害は急激な出水、崖くずれと土石流によるものである。

市民の多くの人達は、あの程度の豪雨が降った場合にどのような現象が発生するかを知らないでいた。大被害を受けた後の現場近くにいた人々は、『あのようなことが起こるとは思わなかった』と異口同音に告白することが常である。

災害事後には災害対策の不備が強調されるが、防災教育の不備があまり論じられない。どの程度の風が吹いたなら、どの程度の雨が降ったなら、どのような現象がどの程度に発生するかを事前に知っておれば、被害を最小限度に食い止めることは可能である。1952年の諫早大水害時に大村市は諫早とはほぼ同程度の豪雨に見舞われたが、被害が僅かに済んだし、1983年の山陰豪雨時には三隈町では逸早く退避命令を出し、被害の激甚化を未然に防いでいる。これらはいずれも自治体の首長が豪雨の来襲に対して災害現象の発生を察知し行動した結果であった。

災害は環境に支配されるものであり、災害発生環境は気象だけではない。それゆえ気象学者・技術者の防災に関わる分野は一部分に過ぎない。しかし、防災活動の初動は注意報警報によって始まる。気象現象の局地性は災

害現象の局地性に結びつくこともある。

気象学者・技術者が率先して防災教育に乗り出すことをお願いします。

文献

- 倉嶋 厚, 原 達也, 1972: 死者数から見た気象災害の変遷について, 研究時報, 24, 317-332.
- , 1973: 注意報, 警報の対象としての斜面崩壊について, 気象庁予報部予報課技術資料, 第14号 (同報文は測候時報, 40, 429-446 に収録).
- , 谷川良次, 1975: 台風, 集中豪雨とハリケーン, トルネードの死者災害の変遷の比較, 研究時報, 27, 153-158.
- 奥田 穰, 1976: 台風災害, 気象研究ノート, 129号, 237-267.
- , 1983: 降雨と斜面崩壊との関係について, 八代学院大学紀要, 25号, 50-61.
- 当舍万寿夫, 1976: 降雨強度の測定, 気象研究ノート, 130号, 133-146.
- 高橋浩一郎, 1968: 気象災害論, 地人書館.
- , 亀井 勇, 宮崎正衡, 1960: 伊勢湾台風被害概報, 気象概況, 建築雑誌, 75, 881号.
- 鹿児島地方気象台: 短時間の強雨に関する雨注意報・警報の発表基準について (プリント).
- 日本建築学会編, 1972: 近代建築学 発達史 (防災編), 技報堂.
- 東京営林局, 1960: 昭和34年台風第7号及び第15号による森林の風害調査, 東京営林局.
- 建設省地理調査所, 1960: 伊勢湾台風による高潮・洪水と地形との関係, 建設省地理調査所.

第32回風に関するシンポジウム講演募集のお知らせ

標記シンポジウムを下記の通り開催致しますので奮ってご応募下さい。

記

日時 1985年1月24日 (金)

会場 気象庁講堂
東京都千代田区大手町 1-3-4
(地下鉄 東西線 竹橋駅下車)

共催学会 地震学会, 土木学会, 日本海洋学会, 日本気象学会 (幹事学会), 日本建築学会, 日本航空宇宙学会, 日本地理学会, 日本農業気象学会, 日本林学会, 日本流体力学会, 日本風工学会

申込方法 題目, 講演者氏名 (連名の場合は講演者に○印), 勤務先 (電話), 100字程度の要旨を記入, スライド, オーバーヘッドプロジェクター (8mm, 16mm) の使用等を記入。

講演申込先 〒305 茨城県筑波郡谷田部町長峰1の1
気象研究所物理気象研究部 花房龍男
(日本気象学会 風に関するシンポジウム係)
電話 0298-51-7111 内線 607

講演申込締切日 1985年10月26日 (必着)

講演時間 1講演 15分程度

懇親会 終了後気象庁食堂にて開催予定

その他 前刷集は作成致しません